

目 次 (2022年度入学生用)

学部基礎科目 (1年次配当)

経 済 数 学 入 門 イ …… 1	経 済 数 学 入 門 ロ …… 3
経 済 史 入 門 …… 5	簿 記 入 門 イ …… 6
簿 記 入 門 ロ …… 7	原 価 会 計 論 …… 9
現 代 企 業 論 …… 10	経 営 管 理 論 …… 11
統 計 学 入 門 イ …… 12	統 計 学 入 門 ロ …… 14
統 計 学 …… 16	社 会 調 査 法 …… 18
地 域 調 査 法 …… 20	

学部専門科目 (1年次配当)

観 光 学 概 論 …… 21	グ ローバル社会概論 …… 22
-----------------	------------------

教職課程科目 (教職課程履修者に限り履修可)

経 済 学 入 門 …… 24

※教職課程履修予定者も履修可

学部基礎科目(1年次配当)

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310121) 経済数学入門イ Introduction to Mathematics for Economics	科目区分	時間割 後期水1	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目	経済数学, ミクロ経済学I・II, マクロ経済学I・II	
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習 (準備時間15時間+事後学習45時間)			
授業の概要 ミクロ経済学・マクロ経済学およびその関連科目を学習する上で必要となる数学のうち、微分、偏微分、積分に関連する分野について解説します。定理の証明よりも概念の理解と公式の運用を重視した内容です。なお、高校において微分・積分を学習済みであることは前提としません。			
授業の目的 経済に関する専門知識を身につけるための基礎的知識として、経済学における記号・数式・グラフの使い方を知り、経済学において応用される微分、偏微分、積分に関わる手法を学習する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・微分、偏微分、積分の意味を説明することができる (DPの「b.知識・理解」に対応)。 ・経済学で使う基本的な関数について、微分、偏微分、積分の計算ができる (DPの「b.知識・理解」に対応)。 ・経済学における微分、偏微分、積分の考え方の応用について、簡単な例を使って説明することができる (DPの「b.知識・理解」に対応)。 ・経済学で応用される基本的な最適化問題を解くことができる (DPの「b.知識・理解」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 宿題(30%)と期末試験(70%)の合計により評価します。詳しくは初回授業において説明します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 進行状況により若干の変更をすることがあります。 第1回 ガイダンス、経済学における基本的な関数 (1) 第2回 経済学における基本的な関数 (2) 第3回 経済学における基本的な関数 (3) 第4回 経済学における基本的な関数 (4) 第5回 経済学における基本的な関数 (5) 第6回 微分・積分とその応用 (1) 第7回 微分・積分とその応用 (2) 第8回 微分・積分とその応用 (3) 第9回 微分・積分とその応用 (5) 第10回 偏微分と等高線 (1) 第11回 偏微分と等高線 (2) 第12回 偏微分と等高線 (3) 第13回 偏微分と等高線 (4) 第14回 最適化問題 (1) 第15回 最適化問題 (2)			
【授業及び学習の方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式で行います。また理解度を確認するため小問を解く時間を設けます。 ・この科目は全回対面授業を行います。 			
【自学自習に関するアドバイス】 <ul style="list-style-type: none"> ・受講生は復習を重視した自学自習を行ってください。授業内容は連続しているため、授業前には前回の内容を再確認してください (15時間)。授業後には講義中に示す問題や宿題に取り組み、計算や作図を自分の手で行うことで自分の理解を確認してください (40時間)。また理解を深める上で、エクセルなどPCソフトを使って関数グラフを描いてみることも有効です (5時間)。 ・各回のキーワードは以下の通りです。 第1章 (1回～5回) : 1・2・3次関数, 指数法則, 累乗関数, 複利計算, ネイピア数e, 逆関数, 指数関数, 対数関数 第2章 (6回～9回) : 微分係数, 導関数, 接線, 微分公式, 第2次導関数, 増減と凹凸, 不定積分と定積分 第3章 (10回～13回) : 偏微分係数, 偏導関数, 偏微分公式, 等高線, 全微分と接平面 第4章 (14回～15回) : 停留点と鞍点, 等号制約付き最適化問題			

教科書・参考書等

【教科書】教科書は指定しません。授業資料をMoodleから配付します。

【参考書】詳しくは初回授業において紹介します。

- ・尾山大輔・安田洋祐（2013）『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』改訂版，日本評論社。
- ・白石俊輔（2014）『経済学で出る数学：ワークブックでじっくり攻める』日本評論社。
- ・丹野忠晋（2017）『経済数学入門 初歩から一歩ずつ』日本評論社。

オフィスアワー 火曜日4時限目（予定），南キャンパス4号館3階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

最初のうちは高校数学の復習が多くなりますが，油断せずに継続して出席することが大切です。

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lb2 授業科目名 (時間割コード: 310122) 経済数学入門 Introduction to Mathematics for Economics	科目区分	時間割 後期水1	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lb	単位数 2	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目	経済数学、ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱ、 マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 ミクロ経済学・マクロ経済学等、経済学を学習する上で必要となる数学のうち、微分・積分に関連する分野を講義する。			
授業の目的 ミクロ経済学・マクロ経済学等の経済学では、「生産量を増やすと費用はどれだけ増えるか」「価格を下げると需要量はどれだけ増えるか」等のように、数量と数量の関係(数学用語を用いれば、変数と変数の関係)を頻繁に議論する。とりわけ、「利潤を最大にするにはどれだけ数量を生産すればよいか」等のように、最適化の問題はとりわけ重要である。このような変数間の関係を議論するために必要な数学的手法が微分・積分である。本講義では、経済学を学習する上で必要となる微分・積分の手法を学習する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・微分、偏微分、積分の意味を説明できる(DPの「b.知識・理解」に対応)。 ・基本的な関数の微分、偏微分、積分の計算ができる(DPの「b.知識・理解」に対応)。 ・経済学において微分、偏微分、積分の手法がどのように使えるのか、簡単な例を用いて説明することができる(DPの「b.知識・理解」に対応)。 ・経済学における基本的な最適化問題を解くことができる(DPの「b.知識・理解」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 宿題(30%)、期末試験(70%)により評価します。詳しくは初回授業時に指示します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p>【授業計画】</p> <p>授業は主に板書およびプロジェクタ投影を使用した講義形式で行います。授業中に適宜問題演習を行います。また宿題として演習問題を課します。</p> <p>予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、宿題を解いて理解を深めることが必要となります。</p> <p>第1回 インTRODクション、微分・積分とは何か</p> <p>～第1部 微分の基礎～</p> <p>第2回 微分の基礎的な概念と手法(1)</p> <p>第3回 微分の基礎的な概念と手法(2)</p> <p>第4回 2階微分、凸関数・凹関数と最大・最小</p> <p>第5回 極限に関する厳密な議論</p> <p>～第2部 積分の基礎～</p> <p>第6回 不定積分</p> <p>第7回 定積分と面積の計算</p> <p>第8回 積分の経済学への応用</p> <p>～第3部 微分の発展～</p> <p>第9回 べき乗・指数関数・対数関数と微分(1)</p> <p>第10回 べき乗・指数関数・対数関数と微分(2)</p> <p>第11回 合成関数の微分</p> <p>第12回 2変数関数の微分</p> <p>第13回 条件付き最大化問題</p> <p>第14回 微分の経済学への応用</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>授業計画は、受講生の理解度をみて必要があれば変更する場合があります。</p>			

【授業及び学習の方法】

授業は、教室での講義および反転授業を取り混ぜて行う。反転授業の回では、予習用の教材に基づいて問題演習等を行う。

【自学自習のためのアドバイス】

反転授業の回では、事前に指定された教材を視聴する。授業終了後は、参考図書の該当箇所を読み、理解を深める。また、定期的に課される課題に取り組むことにより、学習内容を定着させる。

【授業形態】

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

教科書・参考書等

下記書籍を購入し参照することを推奨する。ただし、他にも良書があるので、自分の好みに応じて選んでも良い。

尾山大輔他（編著）『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』2012年、日本評論社、2100円＋税

オフィスアワー 月曜日4校時。天谷研究室（南7号館3階）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 授業内容は連続しているので、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。
2. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。

ナンバリングコード B1ECN-bceE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 331010) 経済史入門 Introduction to Economic History	科目区分	時間割 前期水1	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 水野 敦洋	関連授業科目	日本社会経済史、経営史	
	履修推奨科目	日本社会経済史、経営史	
学習時間 講義90分×15回＋自主学习(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、後掲する教科書の内容をベースとし、経済学の基本的な枠組みを用いて、日本と欧米における歴史上の重要な経済事象について解説してゆく。それゆえ、時代を追って出来事を説明してゆくオーソドックスな歴史の授業とは異なり、経済学的な思考から歴史をとらえることに主眼が置かれる。具体的には、まず前半において、経済の歴史的発展に関する多様な見方を紹介する。その上で後半においては、歴史上に存在したさまざまな「制度」と「組織」が経済発展に対してどのような役割を担ってきたのかという点に焦点をあてる。			
授業の目的 この授業の目的は、経済学の基本的な枠組みを用いて、歴史上のさまざまな経済現象について理解するための基礎的な能力を身につけることである(「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」及び「倫理観・社会的責任／市民としての責任感と倫理観」に対応)。したがって、細かな年号や史実を暗記することは重視しない。また、経済学部のカリキュラムに基づき、本科目は学部1年生を主な受講者として想定しており、上級生向けに開講される「日本社会経済史」や「経営史」などの歴史系科目への導入科目として位置づけられる。よって、これらの科目の履修を計画している者は、知識を段階的・体系的に学ぶためにも本科目を履修しておくことが望ましい。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経済学的な思考によって歴史上の経済現象について説明できる。 2. 経済の歴史的発展に関する多様な見方を説明できる。			
成績評価の方法と基準 毎回の提出物50%、期末テスト50%で評価する。 なお、不定期に実施する授業アンケート時に、優れたコメントを提出した者については更に加点する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1) ガイダンス (2) 経済史を学ぶ意味Ⅰ—歴史の教訓・現在の相対化 (3) 経済史を学ぶ意味Ⅱ—実験室としての歴史・歴史的経路依存性 (4) 経済成長 (5) 経済の歴史的発展に関するさまざまな見方 (6) 制度と経済発展 (7) 市場経済の発展Ⅰ—地中海商業の比較歴史制度分析 (8) 市場経済の発展Ⅱ—近世日本における株仲間の役割 (9) 産業革命 (10) 生産組織Ⅰ—工場と企業 (11) 生産組織Ⅱ—奴隷制 (12) 生産組織Ⅲ—地主制 (13) 生産組織Ⅳ—問屋制 (14) 金融取引と制度 (15) まとめ 【授業及び学習の方法】 各回の授業計画は上に記したとおりであるが、受講者の理解度や進捗状況によっては変更する場合がある。また、受講者には各回につき自己学習を行うことが求められる。予習として教科書の該当範囲に目を通し、分からない箇所は自分なりに調べた上で授業に臨むこと。また、復習として授業後に再度教科書・授業資料を読み直し、興味を持った箇所については授業中に紹介する文献を読むなどして理解を深めてもらいたい。 ※この授業は基本対面で実施するが、オンラインで行う場合もある。			
教科書・参考書等 【教科書】 岡崎哲二『コア・テキスト経済史(増補版)』新世社、2016年(2,250円＋税)。 【参考書】 適宜、授業中に紹介する。			
オフィスアワー 金曜2限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 他の科目で学ぶ経済学に関する知識とも関連させながら、積極的に授業内容の理解に努めてほしい。			

ナンバリングコード B1BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320312) 簿記入門イ Introduction to Bookkeeping	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目	原価会計論, 会計学総論, 株式会社社会計, 原価計算論, 管理会計論, 監査論	
	履修推奨科目	会計学総論, 株式会社社会計, 監査論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本講義は入門レベルの商業簿記を講義する。受講者としては簿記初心者を想定している。簿記とは、企業の経済活動を一定のルールにしたがって帳簿に、記録・計算・整理する技術である。簿記を学ぶことは、会計学を学ぶための基礎となるため、会計学に関心のある学生は、ぜひ受講してもらいたい。			
授業の目的 入門レベルの複式簿記の習得を目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
複式簿記の基本的原理を理解し、習得することができる(知識・理解/問題解決・課題探究能力)。			
成績評価の方法と基準 期末試験による。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス [授業計画] <ul style="list-style-type: none"> ・講義には必ず電卓を持参すること。 ・簿記をマスターするためには、とにかく練習問題を繰り返し解くことが必要である。このため、教科書等を利用した自学自習が極めて重要である。 第1回 簿記の意義・目的・種類 第2回 簿記の要素 第3回 簿記上の取引 第4回 勘定とその記入法 第5回 仕訳と転記 第6回 試算表 第7回 決算(その1)～帳簿決算～ 第8回 現金・預金取引 第9回 商品売買取引 第10回 その他の債権・債務取引 第11回 手形取引 第12回 有形固定資産の取引 第13回 貸倒損失と貸倒引当金 第14回 費用・収益の繰延べと見越し 第15回 決算(その2)～決算整理～ [自学自習のためのアドバイス] 第2～15回 簿記は積み上げ式の学習が必要となる。そのため、前回の講義の復習が欠かせないことに留意する。			
教科書・参考書等 井上善弘『複式簿記入門(増補版)』美巧社, 2022年, 2,400円(税別)(近刊)。生協において販売予定。			
オフィスアワー 授業後随時受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業に毎回出席すること。予習・復習を怠らないこと。授業は教科書の内容に沿って進められるため、教科書を必ず購入すること。本講義は対面授業として実施される。但し、状況によっては遠隔授業となることがある。			

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320313) 簿記入門 Introduction to Bookkeeping	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	原価会計論および会計関連の授業	
	履修推奨科目	原価会計論	
学習時間	講義90分×15回＋自学自習 (準備学習 10時間 + 事後学習 50時間)		
授業の概要 簿記や会計は、現在も、ビジネスの場面では「共通言語」として使われています。そして、その役割が現代では昔以上に重要になってきています。なぜだと思いますか？その主な要因の1つは、何と言っても世界へ向けて日本の企業が情報を発信しなければならなくなったからです。そこでは、世界の標準にそって物事が進められ、その成果も世界の報告基準にそって公表されます。その報告基準が（国際）会計基準であり、その会計基準にそって企業の活動を記録していく方法が「簿記」なのです。つまり、「簿記」を学習することは、ビジネスの共通言語を理解するためには欠かせない要素なのです。 この講義では、個人商店の簿記・会計処理に焦点を当てて、簿記の基本要素である「仕訳」、「転記」および「帳簿・勘定の締め切り方」を学習していきます。簿記は理論だけではなく、技術的な面が非常に重要なので、授業中の演習や宿題を通して、みなさんには実際に手を動かして技能として覚えてもらう機会が多くなります。なお、いきなり個人商店の簿記・会計処理の全てを学ぶことは難しいので、「基本」となるトピックを中心に学習していくことにします。 以上の学習を通じて、基本的な簿記の能力を身に付けてもらいます。			
授業の目的 どのような職業に就いても、自分の会社や部署、担当している仕事の状況は、お金（会計）に関する情報で把握しなければなりません。そのための基本となる、お金（会計）に関する情報がどのように作られるのか、つまりこの授業の目的は、「会計情報の「作り方」である複式簿記の基本的な仕組みと処理を理解し、複式簿記の技能（スキル）を身に付けること」です。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 複式簿記の原理を理解し、仕訳、転記および帳簿の締め切りができる (2) 個人商店の商業簿記の基本的な処理を理解し実践できる			
成績評価の方法と基準 期末テスト (ただし、60点に満たない場合には、理解度クイズの得点を加算し、60点以上になれば「可」のみを与える。)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[授業の方法] 口述筆記、板書、演習、理解度クイズ ※全回対面授業です。 ※提出物はレポートBOXへ毎週提出予定です。			
[授業計画 (予定)] (第1週) ガイダンス (第2週) 複式簿記の基礎①(簿記とは？、貸借平均の論理、残高) (第3週) 複式簿記の基礎②(資産・負債・純資産(資本)・収益・費用とは？) (第4週) 複式簿記の基礎③(精算表・損益計算書・貸借対照表の作り方) (第5週) 複式簿記の基礎④(仕訳と転記) (第6週) 複式簿記の基礎⑤(振り替えとは？、決算とは？) (第7～9週) 複式簿記の基礎⑥(決算手続きと帳簿の締め切り) (第10週) 帳簿体系の基礎＋個別取引(現金、現金出納帳、当座預金) (第11週) 商品取引(分記法と3文法、売掛金元帳・買掛金元帳) (第12週) その他の債権・債務①(未収金・未払金、固定資産、売買目的有価証券など) (第13週) 手形取引と受取手形記入帳・支払手形記入帳 (第14週) 決算整理(減価償却、有価証券の時価評価など) (第15週) 3分法による決算の処理			

[自習学習に関するアドバイス]

<基本> (第1～15週) 毎週、理解度クイズを提出してもらいます。これを解くことなどを通して復習して下さい。(15時間)

※大学に来ることができないなどの状況の際には、提出方法を変更します。

(第1週) この授業を学ぶ意味を、配布資料をもとに考えてみて下さい。(3時間)

(第2～5週) 簿記で用いる専門用語、表などへの記入の仕方を復習して下さい。(20時間)

(第6週) 仕訳と転記を考えずにできるまで、繰り返し復習して下さい。(3時間)

(第7週) 振り替え手続きと決算の流れを復習して下さい。(3時間)

(第8～9週) 決算の手続きと帳簿の締め切り方を復習して下さい。(6時間)

(第10～15週) 帳簿体系を理解し、基本的な個別取引の処理や帳簿への記入ができるように繰り返し復習して下さい。(18時間)

教科書・参考書等

[教科書] (予定) 宮脇秀貴「商業簿記の基礎」セキ株式会社 2022

[参考書] 醍醐 聰「明解簿記 上」一橋出版、新井益太郎・稲垣富士男「新会計 (新訂版)」実教出版

オフィスアワー 毎週水曜日「15:30～17:00」(ただし、会議などでいない場合もある)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

必ず予習・復習を行うこと。特に復習は欠かせません。簿記は、半分が「理論」で、残り半分が『技能』です。また、積み上げ式なので前回の内容が理解・実践できていないと授業の中盤以降はついてこられなくなります。前回の内容が確実かつスピーディーにできるようになってから次回の授業に臨んで下さい。そうでなければ間違いなく単位を落とします。

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 321040) 原価会計論 Advanced Bookkeeping	科目区分	時間割 後期火4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	簿記入門および会計学・経営学関連の授業	
	履修推奨科目	簿記入門	
学習時間	講義90分×15回+自学自習 (準備学習 10時間 + 事後学習 50時間)		
授業の概要 車や電気製品の原価はどのように決められるのだろうか？という疑問を持ったことはありませんか？現代では、製造業だけでなく、サービス業においても、原価をマネジメントすることがたいへん重要となっています。 本講義では、原価の計算の仕方、つまり原価計算の基本的な方法を、複式簿記を用いて説明していきます。なぜなら、通常、原価計算は、複式簿記の原理に基づく工業簿記の中で用いられており、この有機的な関連を学習することは、企業を会計的な側面から観察する時に非常に役立つからです。具体的には、工業簿記・原価計算のしくみの基礎とその記帳処理を学習していきます。			
授業の目的 「原価(コスト)」の理解は、日常生活だけでなく経営学やマーケティング、会計学を学んでいく上でも重要となります。なぜなら、全ての活動には「原価(コスト)」が必ず関わってくるからです。したがって、この授業の目的は、「工業簿記と原価計算の基本原則を理解し、実践できる」となります。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 複式簿記の原理を理解し、仕訳、転記および帳簿の締め切りができる。 (2) 製造企業の中で行われる工業簿記のしくみを理解し実践できる。 (3) 基本的な原価計算の理論を理解し計算ができる。			
成績評価の方法と基準 期末テスト (ただし、60点に満たない場合には、理解度クイズの得点を加算し、60点以上になれば「可」のみを与える。)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス [授業の方法] 口述筆記、板書、プリント配布、理解度クイズ ※全回対面授業です。 ※提出物はレポートBOXへ毎週提出予定です。			
[授業計画] (第1週) ガイダンス (第2～4週) 複式簿記の基礎 (第5～6週) 企業活動と工業簿記 (第7～11週) 原価の構成要素と記帳処理 (第12～13週) 総合原価計算と記帳処理 (第14・15週) 個別原価計算と記帳処理			
[自習学習の] <原則>毎週、理解度クイズの提出があるので、それを解くことなどを通して、しっかり復習を進めて下さい。(15時間) ※大学に来ることができない状況の際には、提出方法を変更します。 (第1週) この授業の位置づけを理解して下さい。(3時間) (第2～4週) 複式簿記の基礎の復習です。専門用語、表への記入の仕方、仕訳、転記、振り替え、決算手続きなど、複式簿記の総復習です。(9時間) (第5～6週) 工業簿記・原価計算の目的や流れを復習して下さい。(6時間) (第7～11週) 材料費、労務費および経費の詳しい処理を復習して下さい。(15時間) (第12～13週) 総合原価計算の原理と計算を復習して下さい。(6時間) (第14・15週) 個別原価計算の原理と記帳処理を復習して下さい。(6時間)			
教科書・参考書等 [教科書] 宮脇秀貴「工業簿記の基礎(改訂版)」セキ株式会社, 2022年 [参考書] 溝口一雄「例解工業簿記」中央経済社、溝口一雄「最新原価計算講義」中央経済社、岡本 清「原価計算」国元書房			
オフィスアワー 毎週水曜日「15:30～17:00」(ただし、会議などでいない場合もある)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 必ず予習・復習を行うこと。特に、復習は欠かせません。簿記は、半分が「理論」で、残り半分が『技能』です。また、簿記は積み上げ式なので前回の内容が理解・実践できていないと授業の中盤以降はついてこれなくなります。前回の内容が確実かつスピーディーにできるようになってから次回の授業に臨んで下さい。			

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322131) 現代企業論 Contemporary Business	科目区分	時間割 後期月2	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 張 暁紅	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習13時間+事後学習39時間+中間レポート8時間+期末復習10時間)			
授業の概要 本講義では、企業はいかなる形態をもつのか、どのように経営活動を行っているのか、現代企業の社会における責任とはなにか、などの問題について学習する。			
授業の目的 ①「企業」という組織形態に対する認識を高めつつ、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、企業と社会との関係の知識を得る。 ②日頃企業に関するさまざまな話題に関心を持ち、講義内容とリンクさせて思考する習慣をつけること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①現代企業に関わる基礎的知識と理論が習得できる。 ②新聞やニュースなど、日常的に接する現代企業の話題を講義内容とリンクさせて思考し、分析することができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験70%、レポート30%で評価を行う。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ※ 講義は遠隔で行う予定です。 【授業計画】 1. ガイダンス：現代企業論講義で何を学ぶか？ 2. 企業の諸形態 3. 株式会社①株式と資本金 4. 株式会社②所有と経営の分離、所有と支配の分離 5. 継続的に財・サービスを提供する機関としての企業①長寿企業 6. 継続的に財・サービスを提供する機関としての企業②企業の製品戦略 7. 企業と社会①企業の経済的な役割 8. 企業と社会②企業の社会的責任 9. 日本のトップマネジメント組織と企業統治①日本的企業統治 10. 日本のトップマネジメント組織と企業統治②日本的企業統治の形成要因 11. 欧米諸国のトップマネジメント組織と企業統治 12. 日本の企業統治の変容①ドキュメンタリー鑑賞 13. 日本の企業統治の変容②講義 14. 企業の成長とイノベーション 15. まとめ 【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、授業中に課題を課し提出してもらいます（任意提出。詳細はガイダンスにて）。 【自学自習のためのアドバイス】 (1) 第2回目～第14回目： ①準備学習について（1時間×13回） 事前に配布されたレジュメや教科書に基づいて、事実、基本概念などを自ら調べて把握しておく。 ②事後学習について（3時間×13回） 授業内容をしっかり理解したうえ、良質な情報源も活用し、幅広くかつ深く探求することに努める。 (2) 中間レポートに関わる学習と提出について（8時間×1回） ①講義時に紹介した日本経済新聞記事をヒントとし、自らキーワードを選定して調査研究を行う。 ②学習・研究した成果をレポートにまとめて提出する。 (3) 期末試験に関わる復習について（10時間×1回） 期末試験に備えて、授業内容を全面的に振り返り総復習を行う。			
教科書・参考書等 教科書：指定なし。レジュメを配布する。 参考書：①佐久間信夫編著『よくわかる企業論』第2版、ミネルヴァ書房、2016年、2700円 ②加護野忠雄等編著『取引制度から読みとく現代企業』有斐閣アルマ、2018年、2000円 ③加護野忠雄等編著『コーポレート・ガバナンスの経営学』有斐閣、2010年、2400円			
オフィスアワー 火曜日の三時限目。研究室（南キャンパス3号館2階）			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業に関する教員からのお知らせはMoodleに掲載しています。定期的に確認してください。			

ナンバリングコード B1BSN-bcxE-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320201) 経営管理論 Management and Administration 経営管理論	科目区分	時間割 前期火5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目	現代企業論, 経営戦略論, 経営組織論, 人的資源管理論, 企業倫理	
	履修推奨科目	現代企業論, 経営戦略論, 経営組織論, 人的資源管理論, 企業倫理	
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本講義は、初めて経営学を学ぶ学生を対象として、企業経営の全体像は何か、経営学の全体像は何か、経営学を学ぶ意義は何か、経営学をどのように勉強すればよいか、などを説明する導入科目である。経営学各分野の諸理論と企業経営の実例を紹介しながら、経営学の概要を分かりやすく講義したい。			
授業の目的 経営学と企業経営の全体像を理解してもらうのが本授業の目的である。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 企業と経営の仕組みについて自分の言葉で語ることができる(学士課程のDP「b:知識・理解」に対応)。 2. 企業経営の実際を考察する際に必要な基本的な考え方を身に付け、自身の問題意識と関連づけて考察することができる(学士課程のDP「c.問題解決・課題探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 期末試験70%, 小テスト30%を目安にして、総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 授業は基本的にパワーポイントを使った講義形式で進める。また、ビデオなどの視聴覚教材も適宜使用する。			
第1回 インTRODakション 第2回 企業経営の全体像 第3回 経営学の全体像 第4回 企業と会社 第5回 企業とインプット市場との関わり 第6回 企業とアウトプット市場との関わり 第7回 競争戦略のマネジメント① 第8回 競争戦略のマネジメント② 第9回 多角化戦略のマネジメント 第10回 国際化のマネジメント 第11回 マクロ組織のマネジメント 第12回 ミクロ組織のマネジメント 第13回 キャリアデザイン 第14回 経営学の広がり① 第15回 経営学の広がり②			
*対面での授業を基本とする。 *進捗状況に応じて授業計画を変更する場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義前・講義後にはテキストの関連内容について予習・復習をしてください。			
教科書・参考書等 加護野忠男・吉村典久(2021)『1からの経営学(第3版)』碩学舎。2,400円+税。生協で販売。 (教科書は、受講生が各自で入手すること。)			
オフィスアワー 月曜日5限、南キャンパス7号館3階。 上記以外の時間帯については、事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業中の私語と携帯電話の使用を慎むこと。 受講生は日頃から『日本経済新聞』や『日経ビジネス』『週刊ダイヤモンド』などのビジネス雑誌に目を通し、企業の経営動向について観察する習慣を付けてください。			

ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lb2 授業科目名 (時間割コード: 310141) 統計学入門Ⅰ Introduction to Statistics	科目区分	時間割 前期月2	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lb	単位数 2	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目		
	履修推奨科目 統計学		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 統計学は経済にかかわらず、他の分野でも必要とされる分野です。教科書は経済の例や表計算ソフトであるExcelのソフトウェアを用いて説明を行っています。授業では統計学の考え方を、できるだけ数学を使わず理解できるように解説します。			
授業の目的 記述統計と統計的推測の基礎を学習し、データの持つ情報を読み取り判断の拠り所を得るための方法を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・基本統計量を計算し、分布特性を読み取る能力を養う。 ・度数分布を作成し、分布の中心や広がりを理解できる。 ・確率分布(基本的に正規分布)が使えるようになる。 ・サンプリングによる統計的な推定の基礎を理解できるようになる。 			
成績評価の方法と基準 基本的には期末試験の成績で判断しますが、レポートの提出や小テストの結果なども加味します。詳細は第1回目の講義にて説明しますが、基本的に本試験の得点ウェイト7に対し、それ以外が3程度です。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業及び学習の方法】 プロジェクターによる講義形式、時間に余裕があれば演習時間を確保し理解に努めるようにします。 授業の進行程度に合わせても変わりますが、「ランダムな標本と平均」の部分までは確実に終了する予定です。「母集団の推定」については他授業『統計学』につながる部分なので、可能な限り解説する予定です。 授業等に必要な配布物は指定の方法でファイル形式で配布します。詳しくは第1回目の授業で説明します。 なお、授業に関しては対面にて行います。(ただし、感染対策状況により半数の学生は、学部の方針に基づき遠隔授業の可能性あり。)			
【授業計画】 1 授業の概要 2 データの整理 1 3 データの整理 2 4 基本統計量 1 5 基本統計量 2 6 分布の形 7 正規分布 1 8 正規分布 2 9 正規分布 3 10 標本の分布 1 (ランダムな標本と平均) 11 標本の分布 2 (ランダムな標本と平均) 12 推測統計の基礎 13 母集団の推定 1 14 母集団の推定 2 15 母集団の推定 3			

【自学自習のためのアドバイス】

- 1 授業の概要、データの性質等説明します。理解には演習を解くなどの作業が必要です。(2時間)
- 2-3 データの整理にはいくつかの概念修得とともに実際データを表やグラフにすることが必要です。(10時間)
- 4-5 基本統計量の計算は実際に一度手計算で確認することが必要で、演習問題を実際に解いてみます。(8時間)
- 6 分布の形について学習しますが、その際確率の知識が必要になります。そのための問題演習を行います。(5時間)
- 7-9分布の中でも最も頻出するこの分布を理解するためには、背景となる一部の数学が必要です。これらについて学習をします。(10時間)
- 10-11 推定に繋がるこの部分は母集団と標本という概念の理解が不可欠です。実際に計算機で各自どのような対応になっているか確認してもらいます。(10時間)
- 12 いくつかの実験を行ってもらい母集団と標本の関係を確認します。そのためいくつかの実験結果を整理する必要があります。(5時間)
- 13-15 母集団の推定を確認するため、実際の演習問題を通して理解を深める必要があります。(10時間)

教科書・参考書等

『教養 統計学』、森棟公夫、新世社、2012年、¥1700+税

なお、授業にあたって資料等必要とする場合があるので、授業前までに必要な資料を印刷すること。資料の取り出し方に関しては第1回目に説明します。

オフィスアワー 第1回もの授業の際に示します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中私語を慎むなど、他の学生に迷惑をかけないよう最低限のルールは守ること。また、授業中、許可なくスマホ等の使用は禁止です。

ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310142) 統計学入門 Introduction to Statistics 統計学の基礎	科目区分	時間割 前期月2	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 久松 博之	関連授業科目	統計学	
	履修推奨科目	統計学	
学習時間 授業90分×15回＋自学自習 (準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 統計学の基礎は大きく記述統計と統計的推測に分けられる。このうち「統計学入門」では、データを加工しデータの持つ情報を読み取る記述統計を中心に学習する。また、母集団と標本、確率、確率変数などについて理解し、「統計学」で統計的推測について学習するための基礎となる概念を学習する。「統計学入門」と「統計学」の2科目を併せて受講することで、大学学部基礎レベルの統計学を学習する。			
授業の目的 全ての判断の根拠を問えばそれは統計学である。実際のデータの持つ情報を読み取り、判断のよりどころを得るための方法を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
「統計学入門」ではデータを加工しデータの持つ情報を読み取る記述統計の考え方を理解できるようになる。また、母集団と標本、確率、確率変数などの基本事項について理解し、後期の「統計学」で統計的推測(確率分布、推定、仮説検定)を学習するための基礎的な知識を身につける。			
成績評価の方法と基準 期末試験(100点満点)による。課題レポートや宿題を課す場合は、それらの得点を期末試験得点に加算した総合得点が60点以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 講義ノートによる板書講義。テキストはその都度参照する。配布資料を使って説明する場合がある。随時、練習問題を解く。Excelを使って処理する課題レポートを課す場合がある。2変量の関連性まではテキストと配布資料を使い、母集団と標本、確率の基礎と確率変数については配布資料のみで授業を行う。練習問題はホワイトボードに解答させ、答え合わせをする。ノートPCを教室持ち込みでExcel実習の機会を作る等、双方向化を試みる。 この科目は全回対面で授業を行う予定だが、状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する場合がある。			
【授業計画】 第1回. 統計学とはなにか 第2回. 統計データの種類(量的データ, 質的データ, 時系列データ, 多変数データ) 第3回. 統計データの尺度(順位尺度, 名義尺度, 間隔尺度, 比率尺度) 第4回. 統計表のグラフ表現(度数分布とヒストグラム) 第5回. 中心の位置の統計量(最頻値, 中央値, 平均値) 第6回. 中心の位置の統計量(度数分布表の平均, 加重平均) 第7回. 変化を表す統計量(変化幅, 変化率, 寄与度, 寄与率) 第8回. 散らばりの統計量(分散, 標準偏差, 四分位偏差) 第9回. 標準偏差の活用(チェビシェフの不等式, 変動係数, 標準化) 第10回. 散らばりのグラフ表現(四分位範囲, 箱ひげ図) 第11回. 2変量の関連性(散布図と相関係数) 第12回. 確率(確率の定義, 条件付き確率, 事象の独立性) 第13回. 確率変数と確率の対応関係 第14回. 母集団と標本(標本抽出, 全数調査と標本調査) 第15回. 授業の総括 [期末試験]			
【自学自習に関するアドバイス】 毎回、テキストと配布するレジュメを使った事前学習を2時間、事後学習はWeb資料でのExcel実習2時間あるいは章によっては宿題(練習問題)を課すので、それを解くのに2時間が基本パターン。			

【この授業における欠席に関するルール】

香川大学単位の授与に関する規程第4条に「開講時数の3分の2以上出席していない者については、その授業科目の単位を与えない。」とある。

- (1) 欠席する場合、事前の連絡は一切不要。後日、欠席届とそれを証明する書類を添付して提出すること。
- (2) 公欠にあたる場合（感染症、忌引き等）は、出席扱いにしてその時間配布した資料を与える。
- (3) 公欠にはあたらないがやむをえない事由だと判断できる場合、欠席扱いにはするが、申し出があれば配布した資料を与える。
- (4) 自己都合の欠席の場合、欠席した授業で配布した資料は与えない。

* 体調不良の場合は欠席した方がいい場合もあるが、出席したりしなかったりを繰り返すと内容が理解できず単位を落としてしまうので、可能な限り出席するよう心がけること。

教科書・参考書等

教科書：『プレステップ 統計学 I 記述統計学』，稲葉由之著，弘文堂，定価1800円＋税

オフィスアワー 月曜日3限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 2/3以上出席していない場合、成績は自動的に不可になる。
2. 質問がある場合は必ず自筆のノートを持参すること。
3. スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を原則禁止する。
4. この授業では欠席に関するルールがあるので注意すること。

ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310151) 統計学 Statistics	科目区分	時間割 後期金5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目	統計学入門	
	履修推奨科目	統計学入門	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 統計学入門を履修済みの学生に対し、推測統計学の考え方の基本を解説することを目的とします。基本的には、統計的仮説検定を中心に、統計学入門では扱わなかった分布についても講義します。また、2変量間の関係を扱う分析方法も説明します。この推測統計学の考え方は、経済学で扱うこれ以外のデータを取り扱う科目の基礎となるばかりではなく、自然科学をはじめとして他の分野とも密接な関係があります。			
授業の目的 データの推論的取り扱いや帰納的推論の演習を行うことで、経済学部の勉強に限らず、これからのデータオーリエンテッドな社会に対応できる能力が向上します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・正規分布を用いた推定、検定の理解できる ・t分布を用いた推定、検定の知識を習得できる ・他の分布の存在と利用法の理解 ・独立性の検定への対応が可能 ・相関分析を理解することができる ・単回帰分析による変数間の関係理解 			
成績評価の方法と基準 出席、レポートおよび期末試験。得点の比重は出席とレポート合わせて30%に対し、後期試験70%で行います。なお、授業中にも関わらず、許可なくスマホ等を使用した場合、成績評価対象外とすることがあるので、留意しておいてください。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業及び学習の方法】 プロジェクターを用いた投影を含め、板書を用いて授業を行います。 授業中にコンピュータの使用に関する演習は行わない予定です。ただし、自主的な学習においては自宅等にて表計算ソフトウェアによる演習や復習を促す場合があります。 事前に教材となるレジュメ等をイントラネット上またはmoodle上で配布するので、学生は必要箇所を確認印刷して準備しておくこと。 レポート提出に関しては登録人数により、実際の手書きレポートを提出レポートにするか、それともmoodle上のウェブサイトにて提出するか、どちらかの方法で提出してもらいます。 具体的な方法については第1回目の授業で確認します。 小テスト等moodle上で行う可能性があります。 なお、授業に関しては対面にて行います。(ただし、感染対策状況により半数の学生は、学部の方針に基づき遠隔授業の可能性あり。)			
【授業計画】 (1) 確率分布① (2) 確率分布② (3) 二項分布① (4) 二項分布② (5) ポアソン分布 (6) 連続分布① (7) 連続分布② (8) 正規分布①			

- (9) 正規分布②
- (10) 無作為抽出と標本分布
- (11) 推定の実際①
- (12) 推定の実際②
- (13) 仮説と検定①
- (14) 仮説と検定②
- (15) 相関係数

【自学自習のためのアドバイス】

- (1)-(2) 確率分布に関する基本を説明し、演習問題を解く必要があります。(8時間)
 - (3)-(4) 二項分布の基本的な概念を用いて、応用問題を解く必要があります。(4時間)
 - (5) ポアソン分布の使用例を確認し、実際に演習問題を解きます。(4時間)
 - (6)-(7) 連続分布の概念をより定着するために演習を行います。(8時間)
 - (8)-(9) 正規分布を理解するために、表や計算機を用いた演習を行います。(8時間)
 - (10) 母集団と標本の関係を理解するため、演習を行い理解を高めます。(4時間)
- 小標本による推定について考えてみます。復習には問題等を解いて確認する必要があります。(4時間)
- (11)-(12) 大標本や小標本における推定について考えます。実際に演習を解いて状況を確認する必要があります。(8時間)
 - (13)-(14) 検定についてその方法論や問題点を確認します。図や表を用いて自分で概念を確認することが必要です。(8時間)
 - (15) 2変量の取り扱いについて学習しますが、実際の理解には演習を行うことが必要です。場合によってはグラフを作成します。(4時間)

教科書・参考書等

基本的には使用しません。こちらで事前に資料を提示するので、授業前までに必要な資料を印刷すること。資料の取り出し方に関しては第1回目に説明します。

なお、以下の本は前期の「統計学入門」で一部使用したので、その関連で参考資料とします。ただし、必要に応じて参考文献は示します。

『教養 統計学』、森棟公夫、新世社、2012年、¥1700+税

オフィスアワー 第一回目に説明します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業のレジュメ等を用意する場合があるので、各自で印刷してください。具体的な方法は第一回目の授業において説明します。なお、授業中、許可なくスマホ等の使用を禁止します。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 332064) 社会調査法 Social Research Methods	科目区分	時間割 前期木4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1SCL	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 L	単位数 2	
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目	文化人類学	
	履修推奨科目	文化人類学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 私たち人間は「社会」の中で生きており、社会集団に属し社会現象や人間の価値観に関連する問題にも遭遇します。とりわけ今日、グローバル化する現代社会の中で、私たちが生きる日本社会のみならず、世界の多様な人びとが生きる「社会」を様々な角度からとらえ、研究の題材とすることも不可欠です。しかしそもそも、「社会」とは何でしょうか。それは、どのようにしてとらえることができるのでしょうか。 本講義では、第一線で活躍する研究者が、社会または社会集団内における社会事象を実証的にとらえる方法を解説しながら、フィールドワークの「現場」から捉える基本的な調査方法について学びます。			
授業の目的 「社会」を対象とする社会科学の分野では、多種多様な社会調査の方法が開発され、発展してきました。本講義では社会調査がますます重要視される中で、第一線で活躍する研究者が、社会調査の歴史や具体的事例、「社会」にフォーカスするための調査方法を紹介し、調査をする上での倫理・心構えなど、社会調査に関する基礎的事項を講義します。また社会の中の人間・文化を分析するために、不可欠な基本的知識として分類カテゴリーの人種・民族・文化についても学ぶ。 学生が、社会調査の歴史とその研究蓄積・方法を学ぶことで、自ら社会調査を企画・設計できるように、基本的な知識と「社会」をとらえ、日本と世界を見渡す姿勢を身につけることを目的とします。※公務員試験社会学分野社会調査法と対応。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会調査の基本的考え方、および社会科学の各分野の基本概念を簡潔に説明できる。 2. 社会調査のプロセスを具体的に述べることができ、実際に基礎的な調査を実施することができる。 3. 調査倫理の問題を踏まえつつ、社会調査の意義について理解し説明することができる。			
成績評価の方法と基準 平常点(出席、リアクション・ペーパー)、授業中に行う小テスト(確認テスト)、学期末の筆記試験をもとに成績を総合評価する。無断欠席5回で自動的に「不可」となるので注意すること。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ※この講義は基本的に対面で実施します。			
第1週 インTRODクシヨン—社会調査の前提となる、「社会」とはそもそも何か？ 第2週 社会調査とは何か？ 第3週 研究と社会調査—社会調査の源流：人口調査、貧困調査、国勢調査 第4週 社会調査の対象と方法 第5週 社会の中の人間・文化の見方—基本的分類カテゴリーとしての人種・民族・文化 第6週 質的調査(1) 質的調査の種類と考え方—シカゴ学派社会学と民族誌の系譜文化人類学 第7週 質的調査(2) インタビュー調査 第8週 質的調査(3) フィールドワークの方法 第9週 質的調査の方法と実例—風水とはなにか？風水師に「風水宝地」を聞き出す方法 第10週 量的調査法と実例—香川県の漁師と青森県大間マグロー本釣り漁師の信仰 第11週 日本の農山漁村における社会調査 第12週 観光振興・地域活性化に関わる調査①(地域活性化編) 第13週 観光振興・地域活性化に関わる調査②(観光振興編) 第14週 社会調査と現代社会—個人情報保護と調査倫理— 第15週 まとめ			
教科書・参考書等 【教科書】 特になし。適宜資料を配布します。			

【参考書】

佐藤郁哉『社会調査の考え方（上）（下）』東京大学出版会、2015年、3200円＋税。

長友敦編『グローバル化時代の文化・社会を学ぶー文化人類学／社会学の新しい基礎教養』世界思想社、2017年、1900円＋税。

日本文化人類学会（監修）『フィールドワーカーズハンドブック』世界思想社、2011年、2400円＋税。その他、授業中に紹介します。

オフィスアワー 水曜日15時から17時 南キャンパス2号館3階緒方宏海研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※身近な社会現象を社会調査の目でみる姿勢を心がけること。

※進行状況に応じて内容を調整することがあります。

※授業中にリアクション・ペーパーの執筆や小テスト（確認テスト）を課す回がある。

※授業で紹介する参考文献をもとに自主的に研究するよう努めてください。

ナンバリングコード B1GE0-bceE-30-Lb2 授業科目名 (時間割コード: 332065) 地域調査法 Regional Research Methods	科目区分	時間割 前期金5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1GE0	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lb	単位数 2	
担当教員名 山崎 隆之	関連授業科目	社会調査法	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 少子高齢化、人口流出、産業の空洞化など、現在の地域は解決すべき様々な課題を抱えています。しかし、生活者のひとりとして地域で暮らしたり、一時的にその地域を訪れたりするだけで、「何が問題か?」「どうすればいいのか?」について気づくことは難しい…。そうした課題を発見し、詳細に分析し、解決策を検討する取り組みが「地域調査」です。 この授業では、地域調査の様々な手法を解説するとともに、皆さんにも、情報収集→分析・考察→提案という地域調査のプロセスにチャレンジしてもらいます。			
授業の目的 これからフィールド(地域)に出て研究・活動をすすめるために、地域調査の基本的な手法とプロセスの理解【b】し、使いこなす【c】ことを目指します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 調査対象に関連する社会動向や取り組み事例について適切な情報を収集できる。 2. 情報を分析し、知見を得ることができる。 3. 調査結果を報告書(レポート)としてまとめることができる。			
成績評価の方法と基準 初回に出題した課題に基づく、①調査結果ミニレポート(30%)と②最終報告書(70%)の総合評価とします。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス (1) ガイダンス・課題説明 (2) 地域調査・施策展開の事例解説① (3) 地域調査・施策展開の事例解説② (4) 既存資料の収集から状況を把握する① インターネット検索 (5) 既存資料の収集から状況を把握する② 文献・記事 (6) 既存資料の収集から状況を把握する③ 行政資料・統計 (7) 課題内容の補足・出題 (8) 現場に出向き情報を集める① 現地調査・ヒアリング調査 (9) 現場に出向き情報を集める② アンケート調査 (10) 情報を整理して知見を得る① グラフ・表・模式図 (11) 情報を整理して知見を得る② フレームワーク (12) 情報を整理して知見を得る③ 報告書 (13) 調査結果(調査結果ミニレポート)の共有 (14) 新しい調査手法・提案手法の紹介 (15) 最終報告書の例示 【授業外の学び(自学自習)】 初回授業で出題された課題のすすめるために、授業時間外での作業が必要となります。インターネットや新聞・雑誌、書籍などで関連する情報を調べ、自分の課題成果をよりよいものにするための努力を惜しまずに取り組んでください。 【授業形態】 この科目は全回対面授業を行う予定ですが、状況によって全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。いずれの場合でも、講義や課題は同じ内容のもので変更ありません。			
教科書・参考書等 教科書：特になし。適宜資料を配布します。 参考書： 西村幸夫・野澤康編『まちの見方・調べ方』朝倉書店、2010年 岡田友弘・品田茂著『行け行け！わがまち調査隊』自治体研究社、2009年 永田豊志著『最強フレームワーク100』ソフトバンククリエイティブ、2008年			
オフィスアワー 授業終了後に対応します。 山崎研究室(南3号館3階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・授業計画は進捗状況により、変更になる場合があります。変更については授業内で適宜連絡します。 ・授業に参加する意思がない態度や、授業の進行の妨げになる行動をとる学生については退室を指示し、態度が改められない場合は単位の取得を認めない。			

学部専門科目(1年次配当)

ナンバリングコード B2GE0-bdeE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 331020) 観光学概論 Introduction to Tourism	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B2GE0	DP・提供部局 bdeE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山崎 隆之	関連授業科目	まちづくり論、地域活性化論、エコツーリズム論、 観光地理学、観光産業論、観光政策論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 誰もが経験したことがある旅行(観光)ですが、では改めて「観光とは何か?」と問われると答えに困るのではないのでしょうか。 「観光は地域の総合産業」「観光は地域のまちづくりの総仕上げ」などとも言われるように、観光は単に旅行すること自体に留まらず、地域の色々なものごとに関わりのある人間の行動であり、経済活動です。 この授業では、観光の持つ多様な側面について解説するとともに、現在、全国各地で行われている観光振興のための取り組みについても、できるだけ多くの事例を紹介します。			
授業の目的 これから観光について学んでいくための足場固めをするために、幅広い観光の分野についての基本的な理解【b】すると同時に、各地の具体的な事例から地域における観光の現状について理解【e】することを目指します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 学んだ概念や用語を使って観光について説明できる。 2. 様々なタイプの観光の実例について、具体的に説明できる。 3. 観光の持つ魅力や課題について指摘できる。			
成績評価の方法と基準 ①授業各回の小レポート(45%)と②期末レポート(55%)の総合評価とします。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
(1) イントロダクション① 欲望の旅、学びの旅 (2) イントロダクション② 「どっさり」と「ゆったり」 (3) 用語から見る観光 (4) 歴史から見る観光 (5) データから見る観光 (6) 観光資源と観光ルート (7) 観光産業の特徴 (8) 観光産業① 宿泊業 (9) 観光産業② 旅行業 (10) 観光産業③ 交通運輸業 (11) ニューツーリズム① (12) ニューツーリズム② (13) 観光まちづくり① (14) 観光まちづくり② (15) 観光政策と観光マーケティング			
【授業外での学び(自学自習)】 授業の中で観光に関する様々な事例を多数紹介します。授業内で紹介できるのは、それぞれの取り組みのごく一部でしかないので、興味を持った事例については、インターネットや新聞・雑誌、書籍などで、関連する他の事例などについて調べてみてください。			
【授業形態】 この科目は全回対面授業を行う予定ですが、状況によって全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。いずれの場合でも、講義や課題は同じ内容のもので変更ありません。			
教科書・参考書等 教科書：特になし。適宜授業内で資料等を配布します。 参考書： 羽田耕治著『地域振興と観光ビジネス』JTB能力開発、2008年 竹内正人・竹内利江・山田浩之編著『入門 観光学』ミネルヴァ書房、2018年			
オフィスアワー 授業終了後に対応します。 山崎研究室(南3号館3階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・授業計画は進捗状況により、変更になる場合があります。変更については授業内で適宜連絡します。 ・授業に参加する意思がない態度や、授業の進行の妨げになる行動をとる学生については退室を指示し、態度が改められない場合は単位の取得を認めない。			

ナンバリングコード B2SCL-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332071) グローバル社会概論 Globalization and Society グローバル化と社会 Globalization and Society	科目区分	時間割 後期末4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B2SCL	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 世界の文化と社会についてこれから勉強していくうえで、予備知識として必ず知っておくべき用語や概念について解説する。それらの用語・概念の歴史的・社会的背景についてもあわせて考察する。 なおこの授業は対面で行う。			
授業の目的 グローバル社会・経済を学ぶための基礎的・予備的な知識を得る。私たちが生きている世界の現在の状況と、それに至るまでの歴史的な背景を、具体的な事例から理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
世界の国・地域について、具体的にイメージすることができる。世界の言語、文化、社会の幅広い領域について深い関心を持つ。国際的なことごとについて問題意識を持ち、自分に関わる問題として考えることができる。講義で扱った基本的な用語や概念について説明できるようになる。			
成績評価の方法と基準 平常点(授業への参加度をミニレポートで評価)20%、中間試験および期末試験80%により、総合的に評価する。毎回出席をとるので欠席しないこと。無断欠席5回で自動的に「不可」となるので注意すること。中間試験・期末試験いずれも必ず受けること。 ※出席してミニレポート用紙に名前を書くだけでは「平常点」は与えられない。必ず意見・感想・質問などを書いて提出すること。 ※中間試験と期末試験どちらか一方でも受けないと単位は与えられない。 ※しかるべき理由(病気・怪我、忌引、大会参加等)で欠席する場合は、証明書等を添えて欠席届を提出すること。就職活動で欠席する場合も、会社説明会等に出席していたことを証明するものを添えて欠席届を提出すること。 ※なお、適正な収容人数を超えた場合、他学部生の受講制限を行う。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【学習の方法】 授業は必ずノートを取りながら聴く。配布されるプリント等の資料をしっかりと読み、解説された用語・概念をよく理解する。			
【授業計画】 (1) 世界の国と地域 (2) 世界の国と言語 (3) 言語と文化 (4) 民族概念とその歴史 (5) 世界の宗教 (6) 宗教・社会・経済 (7) 政治体制とその歴史 (8) 中間試験(試験範囲は第1回～第7回) (9) 国家と国民 (10) 経済のしくみ (11) 帝国主義と植民地主義 (12) 越境・移動・グローバル化 (13) 南北問題と東西冷戦 (14) ジェンダーとセクシュアリティ (15) メディアと社会 期末試験(試験範囲は第9回～第15回)			
※順番・内容は若干変更される場合がある。 ※各回の担当教員については、初回の講義で一覧を示す。			

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

・準備学習：2時間×15回＝30時間

・事後学習：2時間×15回＝30時間

※授業時に紹介される参考文献を読むことを考慮すると、相当の時間が必要になります。

教科書・参考書等

各教員が随時指定する。

オフィスアワー 個別の講義内容については各教員に確認すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この講義で扱う用語・概念はいずれもごく基本的なものです。そのつどしっかり習得すること。遅刻、途中退出厳禁。

教職課程科目

(教職課程履修予定者に限り履修可)

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310111) 経済学入門 Introduction to Economics	科目区分	時間割 後期火1	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目	ミクロ経済学、マクロ経済学	
	履修推奨科目	ミクロ経済学、マクロ経済学	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 ニュース番組や新聞をみると、経済に関わる話題であふれています。それらは、日本経済全体に関する話もあれば、企業や産業に関する話、政府政策に関する話など様々です。 また私たち自身も、日々の生活の中で様々な経済的な意思決定を数多く行っています。たとえば、財布と相談しながら今日の昼ごはんは何を食べるかを考えたり、自由時間を勉学に励むかアルバイトに費やすかを選択することは、その一例です。 経済社会の事象や課題を理解・検討するには、経済学の知識や考え方、個人と企業の経済的意思決定や政府政策の影響に関する分析方法を理解しておくことが重要となります。 そこでこの授業では、経済学の初学者を対象として、経済学の基礎的な知識と考え方と分析ツールを学習します。			
授業の目的 この授業では、経済学の基礎的な概念と用語を理解し、経済学的な思考方法に慣れ親しむことを目指します。そして、経済事象の背後にある基本的な経済メカニズムを理解し、経済学の基礎的な分析手法を習得していきます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 経済学の基礎的な概念と用語を説明できる。 (2) 経済学の思考方法に慣れる。 (3) 基本的な経済事象について、経済学の基礎的な分析手法を用いて説明できる。			
成績評価の方法と基準 小課題(40%)＋期末試験またはレポート(60%)によって評価します。 小課題は、Moodleを通じて提出してもらう予定です。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業方法】 ・授業は、講義中心に進めますが、受講者数によっては、演習形式やグループワーク等を行います。 ・予復習のための小課題を出題する予定です。受講者は、それらに解答し、期限までに提出してください。これらの小課題による予復習を前提として、次の回の授業を行います。 ・授業形態は、遠隔方式で行います。			
【授業計画】 第1回 ガイダンスとイントロダクション (遠隔) ・経済学とは、経済学の基本問題 第2回 経済学の主要概念 (遠隔) 第3回 市場と競争、市場の効率性と分配 (遠隔) 第4回 機会集合とトレードオフ、機会費用 (遠隔) 第5回 比較優位、サンクコスト、限界概念 (遠隔) 第6回 需要曲線と供給曲線、曲線のシフト (遠隔) 第7回 市場均衡、需要と供給の法則、曲線のシフトと均衡点の変化 (遠隔) 第8回 需要・供給分析の応用(1) 需要の価格弾力性、価格弾力性の決定要因 (遠隔) 第9回 需要・供給分析の応用(2) 需要の価格弾力性と総収入、供給の価格弾力性 (遠隔) 第10回 需要・供給分析の応用(3) 豊作貧乏、価格規制 など (遠隔) 第11回 市場と効率性：消費者余剰、生産者余剰 (遠隔) 第12回 市場と効率性：社会的余剰、死荷重 (遠隔) 第13回 マクロ経済学の基礎概念(1)：フローとストック、国内総生産(GDP)、三面等価 (遠隔) 第14回 マクロ経済学の基礎概念(2)：失業、インフレーション、完全雇用など (遠隔) 第15回 まとめ (遠隔)			

【自学自習のためのアドバイス】

- ・ 毎回、予習・復習として、配布資料や授業ノートをよく確認し、理解しておく。(30時間)
- ・ 第2回 経済学の主要概念について、身近な例を用いながら説明できるようにする。(2時間)
- ・ 第3回 基本的競争モデルについて、説明できるようにする。(2時間)
- ・ 第4・5回 授業で学んだ各種概念について、例を見つけ出して説明できるようにする。(4時間)
- ・ 第6回 需要曲線と供給曲線のシフト要因について整理し、図を用いながら説明できるようにする。(3時間)
- ・ 第7回 需要と供給の図を用いながら、様々な経済現象によって生じる市場均衡の変化を説明できるようにする。(3時間)
- ・ 第8・9回 価格弾力性の概念と決定要因を整理し、説明できるようにする。(4時間)
- ・ 第10回 豊作貧乏のメカニズムや、価格規制の影響を図を用いて説明できるようにする。(4時間)
- ・ 第11・12回 需要と供給の図を用いながら、余剰の概念を説明できるようにする。(4時間)
- ・ 第13・14回 マクロ経済学に関する基礎的な概念を説明できるようにする。(4時間)

教科書・参考書等

①主要参考文献

ジョセフ・E・スティグリッツ／カール・E・ウォルシュ著、『スティグリッツ 入門経済学(第4版)』、東洋経済新報社、2012年、3,024円

②補足説明のための資料を授業内に適宜配布します。

オフィスアワー 木曜日 12:00-13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・ 重要な連絡は、ドリームキャンパスを通じて連絡します。ドリームキャンパスからの連絡をすみやかに確認できるようにしておいてください。
- ・ 経済問題、社会問題に関する現実感覚を磨くために、普段から新聞やニュースに関心を持ち、見聞きしておいてください。